

令和元年度 大田区立久原小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

○児童数814名(9月1日現在)24学級と規模の大きい学校である。「学習・生活をふりかえって(児童の自己評価)」では、「学校は楽しいですか」の問いに、70.6%の児童が「よくあてはまる」と回答している。また、「学校での勉強や生活に一生懸命取り組んでいますか」「名前を呼ばれたら返事をし、立つてから発言していますか」「連絡帳に明日の予定、持ち物、宿題を書き、それを見て次の日の用意をしていますか」も70%以上の児童が同様に回答しており、全体的に明るく落ち着いた雰囲気や生活に取り組んでいる。しかしながら、「進んで挨拶をする」項目では、児童の92%が「よくあてはまる」「あてはまる」と答えているのに対し、保護者アンケートでは63%にとどまっている。「相手に聞こえる挨拶や返事をすること」に重点をおき、取り組んでいる。

○大田区学習成果測定4教科平均正答率では、いずれの学年・教科でも目標値を上回っている。体力・運動能力面では、全国・東京都・大田区と比較して、投力・持久力に課題があり引き続き指導している。

○地域やPTAは大変協力的で、学校の教育活動に積極的にかかわってくれる。学校支援地域本部(スクールサポートくはら)の活動も充実しており、地域と協働した教育活動が定着している。また、夏季休業中に実施される「夏休みドキドキ学校」は17年目を迎え、児童の興味・関心を高めるとともに、学校・保護者・地域の連携に欠かせない活動となっている。

○「互いを認め、高め合える子」をテーマに、体育科を中心に校内研究を進めている。研究授業はもとより、体育実技研修会を設定し授業力の向上を図っている。社会科では「都道府県検定」を実施し、基礎基本の確実な定着を進めている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄
						コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:児童の自己評価及び保護者アンケートにおいて、「自分から進んで挨拶をしている」「進んで挨拶をする子供が多い」の項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合が80%以上。	3	○「自分から進んで挨拶をしている」という挨拶に関する児童の自己評価は91%と高かった。しかし、「進んで挨拶をする子供が多い」という保護者評価では62%と、31%の差があった。子供たちの中では挨拶をしていると思っているが、実際には相手に伝わっていないという現状が分かった。今後は、相手の目を見たり、名前を読んだり、会釈を取り入れたりと、相手を意識した挨拶を実践していく。	○挨拶はコミュニケーションの基本なので、引き続き指導をお願いします。 ○目を見て挨拶することが丁寧な挨拶につながりますね。 ○「あいさつ」について、さらに進めてほしい。 ○表現にも個人差があるので、継続的な取組をお願いします。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	3:児童の自己評価及び保護者アンケートにおいて、「自分から進んで挨拶をしている」「進んで挨拶をする子供が多い」の項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合が70%以上。			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	2:児童の自己評価及び保護者アンケートにおいて、「自分から進んで挨拶をしている」「進んで挨拶をする子供が多い」の項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合が60%以上。			
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:児童の自己評価及び保護者アンケートにおいて、「自分から進んで挨拶をしている」「進んで挨拶をする子供が多い」の項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合が60%未満。			
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。				
		「丁寧な挨拶」の定着に向けて、重点的・継続的に指導する。				
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:児童の自己評価において「勉強は楽しいですか」「勉強や生活に一生懸命に取り組んでいますか」の両項目とも「よくあてはまる」と回答した児童の割合が65%以上。	4	○学習カルテを用いた、一人一人に合った学習方法についての指導は、十分でないところもあった。今後は、算数のステップ学習チェックシートと併せて、毎学期末のあゆみを選ずる際、一人一人に合った学習の仕方を指導していく。 ○今年度から取り組んだ都道府県検定は、4年生以上の児童の72%が合格することができ、県名と位置をしっかりと定着させることができた。今後は、特産品や県庁所在地など、幅を広げた都道府県検定を検討していく。	○児童一人一人に対応する事は大変だと思えますが、今後も丁寧な指導をお願いします。 ○「都道府県検定」はふるさと愛につながり、期待したい。 ○「都道府県検定」は大人になっても役に立つことで、親子間のコミュニケーションにもなるので続けてほしい。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:児童の自己評価において「勉強は楽しいですか」「勉強や生活に一生懸命に取り組んでいますか」の両項目とも「よくあてはまる」と回答した児童の割合が55%以上。			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:児童の自己評価において「勉強は楽しいですか」「勉強や生活に一生懸命に取り組んでいますか」の両項目とも「よくあてはまる」と回答した児童の割合が45%以上。			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1:児童の自己評価において「勉強は楽しいですか」「勉強や生活に一生懸命に取り組んでいますか」の両項目とも「よくあてはまる」と回答した児童の割合が45%未満。			
		都道府県検定に向けて、各都道府県の位置と名称を定着させる指導を進める。				
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:児童の自己評価において「学校は楽しいですか」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合が90%以上。	3	○昨年度より、道徳の授業における児童の学習の記録を、毎学期あゆみを通して保護者へ伝えてきた。また、地域連絡協議会では、学校の内外での児童の様子について情報交換をしてきた。今後も、学校と家庭、地域が連携を図り、児童の豊かな心を育んでいく。また、効果的な題材は、学級の枠を超え、学年で共有して適切な時期に活用していく。 ○いじめ調査を学期に1回全学級で行い、早期発見・解決に取り組んできた。また、そこで得た情報を学年・学校全体で共有し、組織的に解決を図ってきた。今後も早期に発見し、組織的に解決を図っていく。	○学校⇄家庭・地域との連携を図るよう強めたい。 ○核家族化が進む中、子供たちには地域と交流することにより豊かな心が育ちよう地域として協力していく。 ○不登校児に対しては、早いうちに保護者と連携してあげてほしい。 ○優しさや思いやりが自然と心へ反映される指導を今後もお願いします。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う道徳指導充実のための取組を行う。	3:児童の自己評価において「学校は楽しいですか」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合が80%以上。			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:児童の自己評価において「学校は楽しいですか」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合が60%以上。			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1:児童の自己評価において「学校は楽しいですか」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合が60%未満。			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。				
		縦割り班を活用した活動を充実させる。				
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:児童の自己評価において「運動することは好きですか」の項目に「よくあてはまる」と回答した児童の割合が80%以上。	3	○年間を通して取り組む校内研究会の科目を体育科に設定し、年間研究してきた。また、夏季休業中には体育の実技研修を行った。多くの職員が参加し、指導力向上を図ることができた。しかし、94%の児童が運動することについて肯定的な意識であるが、「よくあてはまる」では70%であった。運動することの楽しさを感じることができると指導方法に着目し、今後も研修会を通して改善を図っていく。	○校内研究会・体育に期待する。 ○体を動かすことの楽しさは達成感だと思います。今年は、オリンピック・パラリンピックの年なので、特にパラリンピックの競技を見てもらいたい。 ○児童の運動不足が言われている中、体育科の研究を生かしてほしい。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	3:児童の自己評価において「運動することは好きですか」の項目に「よくあてはまる」と回答した児童の割合が70%以上。			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	2:児童の自己評価において「運動することは好きですか」の項目に「よくあてはまる」と回答した児童の割合が60%以上。			
		校内研究会や体育実技研修会等で学んだ成果を自身の体育授業に生かす。	1:児童の自己評価において「運動することは好きですか」の項目に「よくあてはまる」と回答した児童の割合が60%未満。			
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:保護者のアンケートにおいて「学校は指導法を工夫して、児童にわかりやすく教えている」「学校全体の雰囲気明るく、活気がある」と回答した割合が90%以上。	4	○ICTを効果的に用いた授業力の向上を目指し、年度初めや夏季休業中に研修会を行ってきた。また、月2回情報部会を設定し、効果的な指導方法について検討し、その都度学年全体に共有したことにより、指導力の向上に繋がった。全ての教員が毎日ICTを授業に活用していることも成果である。今後も研修会や定期部会を通して、効果的な活用方法を発信していく。	○ICT活用の定着化が必要と思われる。 ○学校公開等でICTを授業で効果的に活用していると感じている。 ○先生方が元気で楽しく子供たちに接していただくことが大切だと思う。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:保護者のアンケートにおいて「学校は指導法を工夫して、児童にわかりやすく教えている」「学校全体の雰囲気明るく、活気がある」と回答した割合が80%以上。			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:保護者のアンケートにおいて「学校は指導法を工夫して、児童にわかりやすく教えている」「学校全体の雰囲気明るく、活気がある」と回答した割合が70%以上。			
		校内委員会等を実践に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1:保護者のアンケートにおいて「学校は指導法を工夫して、児童にわかりやすく教えている」「学校全体の雰囲気明るく、活気がある」と回答した割合が70%未満。			
		スクールカウンセラーやサポートルーム、スクールソーシャルワーカー、放課後子どもひろば等との連携を通して児童理解を深める。				
プラン6 学校・家庭・地域が一体となって進める	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:保護者アンケートにおいて「学校は、教育活動を公開している」「学校は、教育活動を公開している」「学校は子供のことについて相談にのってくれる」と回答した保護者の割合が80%以上。	4	○「教育活動を公開している」学校の様子がよくわかる」という保護者評価は92.9%であった。本校では、ホームページの更新頻度を増やすとともに、学校公開や行事、学校・学年だより等を中心に学校の教育活動をお伝えしている。今後も随時、児童の成長の様子を発信し、地域に開かれた学校づくりを進める。 ○「子供のことについて相談にのってくれる」という保護者評価は84.4%で、日頃の様子から察知して児童に声をかける以外に、アンケート等を実施し、早期に悩みを発見し、保護者と連携しながら解決を図っていく。	○ホームページのじゅうじつ(タイムリーな)行事予定や実施報告等)を願いたい。 ○情報発信はよく行われている。学校公開も定期的によく行われている。 ○「久原フェスタ」の子供たちの発表は素晴らしいと思う。先生方の指導に感謝。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:保護者アンケートにおいて「学校は、教育活動を公開している」「学校は子供のことについて相談にのってくれる」と回答した保護者の割合が70%以上。			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	2:保護者アンケートにおいて「学校は、教育活動を公開している」「学校は子供のことについて相談にのってくれる」と回答した保護者の割合が60%以上。			
		ゲストティーチャーを招聘しての授業や夏休みドキドキ学校のワークショップ、各行事等を通して、保護者・地域との連携を深める。	1:保護者アンケートにおいて「学校は、教育活動を公開している」「学校は子供のことについて相談にのってくれる」と回答した保護者の割合が60%未満。			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。